

NEWS

「スズキ・メソード×東京大学」 共同研究第2弾が完成

2025年4月、東京大学の酒井邦嘉教授とスズキ・メソードの共同研究成果が、世界的な脳科学誌「Cerebral Cortex」で発表されました。

2016年から始まったこの研究は、「聴くことから曲に入る」という母語教育法で80年の実績をもつスズキ・メソードが、最新の計測技術による脳科学で言語習得を解明してきた酒井教授の研究に出会い、スズキ・メソードの優れた効果や、音楽と言葉の共通性を科学的に解明しようという画期的なチャレンジです。

1.調査で行ったこと

参加者:中級レベルのピアノ奏者(中学生から大人まで) 38名

中級者向けの短いピアノ曲について、

- 1)最初の5日間に音源を聴くことから始める条件
- 2)最初の5日間に楽譜を読むことから始める条件

で、それぞれ2曲ずつを1週間練習してもらいました。

その翌日にMRI装置の中で、曲の一部を不自然に変えたものを正しく判定できるかをチェックしながら、その時の脳活動を測定しました。

	スズキ・メソード以外	スズキ・メソード
ピアノ+他楽器 (Multi)	Multi/ Non-Suzuki 8名	Multi/Suzuki 11名
ピアノのみ (Mono)	Mono/ Non-Suzuki 7名	Mono/Suzuki 12名

2.調査から分かったこと

「正答指標」=正解率÷応答時間(この値が大きいほど成績が高い)

- どの群も、音源を聴くことから始める条件1)のほうが、正答指標が大きい
- 複数楽器習得者(1年以上)のほうが、ピアノのみの人より正答指標が大きい



2025年3月27日記者会見
東京大学 酒井邦嘉教授(左) スズキ・メソード 東誠三会長(中) 早野龍五理事長(右)

- スズキ・メソードの生徒は、条件1)と2)に対する正答指標の差が特に顕著
- 複数楽器習得者では、条件1)で左脳の言語野が活発化した
- どの群も、楽譜を読むことから始める条件2)では右脳の活動が強くなる
- スズキ・メソードの生徒は、条件2)で右脳だけでなく左脳の言語野も活発化した
- 正答指標が大きい人ほど、右脳の聴覚野の活動が節約されて省エネ型になる

3.研究の広がり

- 聴くことから曲に入るメソードや、複数楽器を習得する優位性は、外国語のリスニング学習や、多言語習得の優位性と符合する
- 高度な音楽的判断に言語野が関わっていることは、情操教育と語学教育の相乗効果を示しており、教育現場の改善にも役立つ

東京大学プレスリリース



Cerebral Cortex 論文



MonthlySuzukiでの紹介



公益社団法人
才能教育研究会

才能教育研究会本部事務局

所在地 〒390-8511 松本市深志 3-10-3

T E L 0263-32-7171

F A X 0263-32-7451

メール talent@suzukimethod.or.jp

W E B http://www.suzukimethod.or.jp

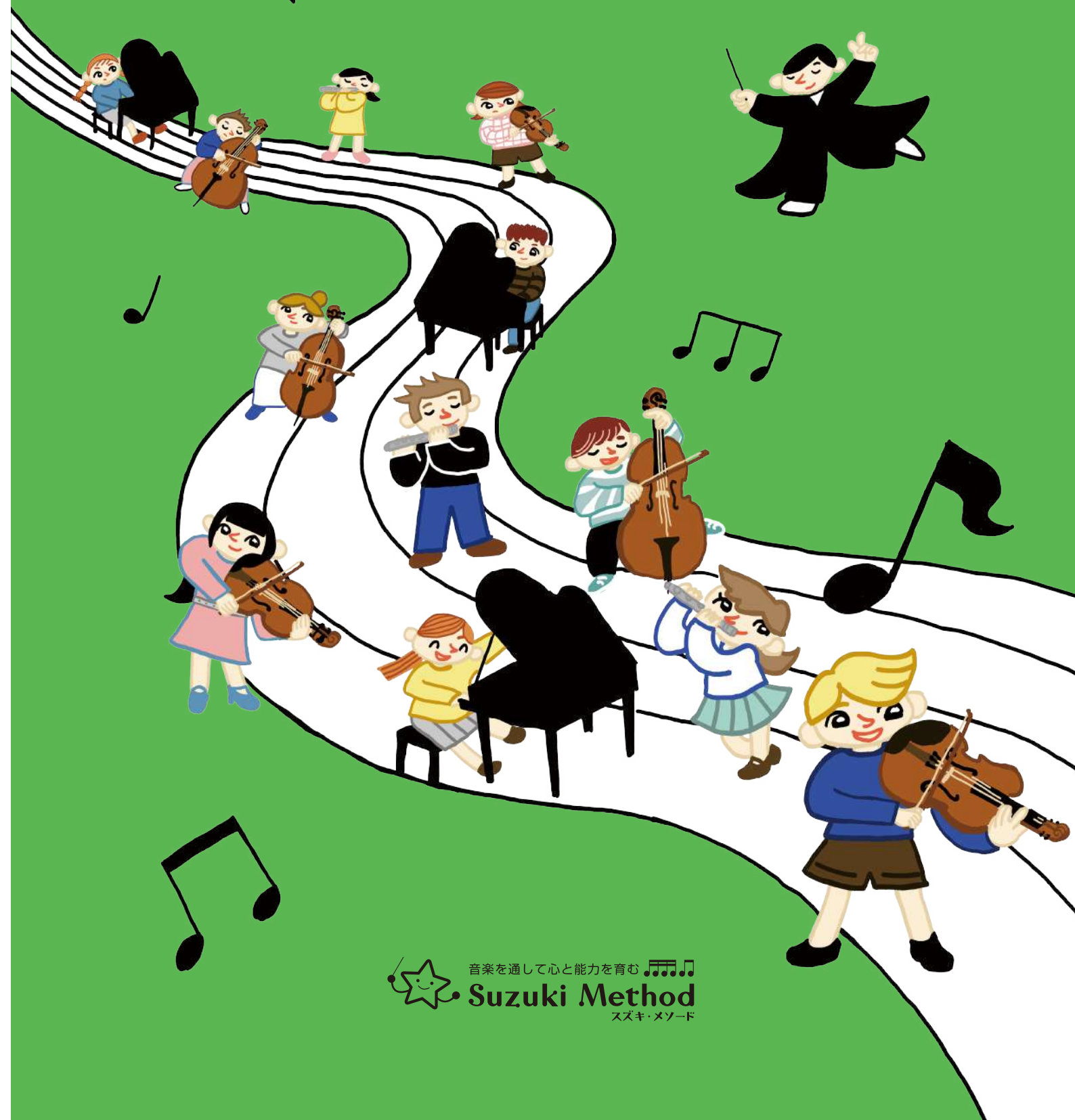
2025年(令和7年)7月20日発行

Webサイト



ANNUAL REPORT

2024-2025



音楽を通して心と能力を育む
Suzuki Method
スズキ・メソード

CONTENTS

理事長挨拶	02
新会長挨拶	03
SPECIAL ACTIVITIES 子どもたちの成長と飛躍を願って	04
年間行事表	05
MAIN ACTIVITIES 2024-2025年の主な活動	06
TOPICS スズキの「卒業制度」解体新書	08
2023年度 収入と支出の内訳・ご支援のお願い	14
創始者 鈴木鎮一について・スズキ・メソード 80年の歩み	15
NEWS 「スズキ・メソード×東京大学」共同研究第2弾が完成	16

理事長挨拶



早野龍五 Ryugo Hayano

公益社団法人才能教育研究会 理事長

1952年生まれ。岐阜県大垣市出身の物理学者（理学博士）、東京大学名誉教授。幼少期に鈴木鎮一に師事。反物質の研究により仁科記念賞、中日文化賞を受賞。2016年より才能教育研究会第5代会長。近著に『「科学的」は武器になるー世界を生き抜くための思考法ー』（新潮社）。

“どの子ども育つ”を科学する時代へ

終戦直後に始まった才能教育運動（スズキ・メソード）は2026年に創立80周年を迎えます。スズキ・メソードは、この80年間で優れた演奏家を多く輩出するとともに、感性豊かな社会人を多数育成し、教育法として高い信頼をいただけるようになりました。

教育改革を担ってきたスズキ・メソードですが、現代の社会変化やAI進化がさらなる変革を迫っています。「どの子ども育つ育て方ひとつ」「母語教育法」という普遍的価値を、時代に即して伝えていくのが私たちの新たな使命です。

この使命達成のため、私たちは教育と運営、両面で改革を進めています。特に教育面では、東京大学との共同研究が大きな成果を上げ、先日、英国の脳科学誌『Cerebral Cortex』に第2弾論文を掲載し、母語教育法の根幹である、「音源を聴いて学ぶこと」の有効性を脳科学によって実証しました。この研究は、音楽教育にとどまらず言語学習など幅広い分野に示唆を与えるものです。

また、理事長と会長の「二頭体制」は、スズキ・メソードの歴史上、初めての組織変更です。創始者鈴木鎮一のスズキ・メソードで育ち、現在は東京藝術大学ピアノ科教授を務めておられるの東誠三先生を会長にお迎えできたことは、心強く、喜ばしい限りです。先生には共同研究も企画段階から深く関わっていただきました。

私たちは創立100周年に向け、新たな一歩を踏み出しました。これからもスズキ・メソードをよろしくお願い申し上げます。

新会長挨拶

次代へつなぐ スズキ・メソードの精神

東 誠三 Seizo Azuma

公益社団法人才能教育研究会 会長

幼少より、スズキ・メソードの片岡ハルコ先生の下でピアノの基礎教育を受けた後、東京音楽大学付属高校から東京音楽大学へ。1983年日本音楽コンクール優勝後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に留学し、J.ルヴィエ、J.C.ペヌティエ氏らに師事。ポツォーリ、モントリオール、カサドシュなど、数々の国際コンクールに入賞。主要オーケストラへの客演、リサイタル活動の他、室内楽にも強い意欲を示し、東京フィル・コンサートマスター三浦章広（Vn）、N響首席チェリスト藤森亮一（Vc）と結成した「ボアヴェール・トリオ」での活動を始め、多くのトップソリストたちと共演。現在、東京藝術大学教授、東京音楽大学特任教授、日本音楽コンクール他、国内外の主要コンクールの審査員を務めている。日本ショパン協会理事。2000年より国際スズキ・メソード音楽院教授、2018年よりスズキ・メソード特別講師及び特別講師長。2024年8月より公益社団法人才能教育研究会会長。

日頃は公益社団法人才能教育研究会（スズキ・メソード）へのご支援を賜り深く御礼申し上げます。2024年8月に会長に就任しました東誠三でございます。

新たに理事長に就任された早野龍五前会長とともに、
本会の組織運営と教育実践の充実したハーモニーを追求していくことになりました。

私は5歳より松本市のスズキ・メソードの教室で故・片岡ハルコ先生の下でピアノを始め、その後演奏家を志し、音楽大学の附属高校、大学と進学し、海外でも研鑽を積む機会に恵まれました。ソリストとしてコンクール、演奏活動、録音活動や音楽大学での後進指導も数多く経験してまいりました。
原点はスズキ・メソードにあり、2000年から現在までスズキ・メソードの指導者養成や現役指導者や生徒の皆さんの学習のお手伝いをしてまいりました。
現在はピアノ科の特別講師に加えて2018年からは特別講師長として全科の指導課題にも取り組んでおります。

スズキ・メソードは創始者である鈴木鎮一先生の極めて卓抜な考えによって生まれた、音楽を通した教育の具体的な方法であり、一見複雑に見える楽器の演奏の習得を順を追って行う事により、社会生活に必要な優れた人間性さえも育てる事ができることを実践・証明してきた教育方法そして生活哲学です。
近年では、脳科学の見地からも、そのアイディアが人間の脳の働きを深く洞察したものであった事が、少しずつ証明されてきました。

私達は、これまでのように、そしてこれまでよりもさらに力強く、この方法の実践を通して、社会に貢献することを追求して参ります。
会長として、今後は運営も含めたこれまでの会の活動を内部から検証・整理し、指導者の指導力向上と新しい指導者の獲得、育成に注力していきたいと思っています。

内外を問わず、社会の状況は益々変化のスピードが上がっています。
また、許容する気風よりも敵対する気風が世界各地で徐々に優勢を占めるようになってきたように思います。
このような気風によって、我々が長い年月をかけて営々と培ってきた様々な文化や叡智が蝕まれて行く、それどころか、破滅的な災いと呼ぶのでは、と憂いている人も多いと思います。
世界全体から見れば、私達才能教育研究会の行なっている活動は些細なことかもしれません。
しかし、現状を真剣に憂う多くの人々と手を取り合って、
我々の最大の財産である、「人間」を育てて行くという地道な仕事に、心血を注いで参ります。
どうぞ私達の活動にご注目ください。

東 誠三

子どもたちの成長と飛躍を願って

第1回スズキチェロキャンプ 2024/4/1-2



若手指導者による新たな胎動

2024年4月、桜が満開の東京にて「スズキチェロキャンプ」が開催されました。本キャンプは、全国各地で指導にあたるスズキ・メソードの若手チェロ指導者7名の発案・企画により実現したものです。全国から参加したチェロの生徒たちは、創意工夫に富んだレッスンやお楽しみ企画を通じて、チェロ三昧の充実した2日間を過ごしました。最終日には、参加者一人ひとりの成長が目に見える成果として現れ、仕上げのコンサートでは参加生徒全員が元気に演奏しました。子育て中の指導者も多く保護者とは同世代、指導者と保護者の連帯感もひとしおのファミリーキャンプとなりました。本企画の好評に手ごたえを感じた指導者たちは、早くも「次回は札幌で」と次なる企画に向けた準備を進めています。

NEW STARS CONCERT 2024/5/3-4

テンチルドレン・ツアー60周年記念演奏会

スズキ・メソードの国際的な普及に大きく貢献した「テン・チルドレン・ツアー」から60周年を迎えたことを記念し、5月連休期間中に記念演奏会「NEW STARS CONCERT」が開催されました。全国から選抜された9歳から16歳までの生徒6名（ヴァイオリン・チェロ・フルート・ピアノ）が参加し、大阪・豊中市立文化芸術センターおよび東京・浜離宮朝日ホールにて演奏を披露しました。大阪公演では関西地区の生徒も出演し、地域を挙げての記念行事となりました。東京公演では、スズキ・メソード出身のヴァイオリニスト大谷康子氏を迎え、ご自身の体験を交えたお話と力強い演奏により、スズキ・メソードに学ぶ子どもたちへの激励のメッセージをいただきました。出演した生徒、関係した指導者、来場の聴衆の皆さんにとって節目となる記念すべきイベントとなりました。



じしんをしるたび「星をつなぐコンサート」 2024/9/15-16



震災の記憶を未来へつなぐ学びと演奏の旅

「地震」を通して「自身」を学ぶ旅。本企画は子どもたちに震災の記憶がない時代となった今、東北地区指導者たちの強い思いで実現しました。

- ・被害の大きかった地域に実際に出向いて学ぶこと。
- ・その見聞を自分のこととして記憶に留め、伝えていく機会を得ること。

コンサート前日には土湯温泉にて合宿練習を行い、翌日は会場となった「道の駅なみえ」にて本番演奏を披露しました。教本の曲に加え、となりのトトロや、地元・請戸小学校の校歌も演奏しました。演奏後には、震災遺構である請戸小学校を見学し、参加生徒は震災の事実を「自分ごと」として学び伝えていくことの重要性を実感しました。震災を直接知らない子どもたちにとっても、災害の経験を伝えていく責任と意義を学ぶ貴重な機会となりました。次回は南三陸町を予定しています。

年間行事表 2024



2024.4

第1回スズキチェロキャンプ 4/1-2



ヴィオラ研究会 4/2
(豊田耕児 名誉会長)

NEW STARS CONCERT(テンチルドレン60周年記念) 5/3-4

OB・OG会第16回コンサート演奏会 5/12

大人のスズキピアノコンサート 5/19

ヴィオラ研究会 5/28
(桐山建志先生)

夏期学校 7/27-31

第13期定時総会 8/19

じしんをしるたび「星をつなぐコンサート」(東日本震災復興支援) 9/15-16

全国指導者研究会 9/26-29

ピアノ科研究科全課程卒業生コンサート 9/28



甲信地区大会 10/20
エトワールコンサート2024 10/20

チェロ科研究会 12/2-3
(特別講師 倉田澄子先生)

2025.1

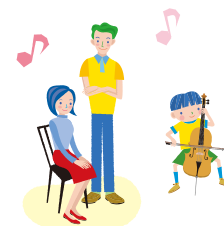


関東地区指導者会新年研究会 1/13

ヴィオラ研究会 1/17
(桐山建志先生)

ヴァイオリン科研究会 1/25
(特別講師 竹澤恭子先生)

フルート科研究会 4/2
(フルート科名誉教授 高橋利夫先生)



ピアノ科卒業式 3/20,26,31

→ 2025

2024-2025年の主な活動

夏期学校



開催期間：2024年7月27日（土） - 7月31日（水）
開催地及び開催方法：まつもと市民芸術館、あがたの森文化会館、松本市勤労者福祉センター、才能教育会館、深志神社・スズキ・メソッド研究所（現地開催のみ）
参加者数：現地参加566名



5年ぶりに全面現地開催に復帰
コロナ禍の発生に伴い、2020年から4年間実施してまいりました教室レッスンのオンライン配信は、この度全面的に中止し、完全な現地開催へと復帰いたしました。2022年、2023年と2年挑戦した現地とオンラインのハイブリッド方式は50以上の教室レッスンを同時配信するというスタッフの膨大な業務負担に見合うオンライン参加者が集まらず（2023年は現地参加442名、オンライン参加92名）、参加者のアンケート回答も現地参加の成果を支持する声が多かったことから現地開催に絞りました。その結果、指導者が教室レッスンにより集中できるようになりました。現地参加生徒数は確実に復活しつつあり、しばらく受け入れ以を中止していた海外からの参加希望も強く寄せられています。最大課題の猛暑対策に加え、観光需要急増による宿泊交通のひっ迫、指導者の高齢化など、運営上の課題を多く抱え、今後の安全かつ実り多い夏期学校の実現に向けて課題解決への努力を続けています。



全国指導者研究会



開催期間：2024年9月26日（木） - 9月29日（土）
開催地及び開催方法：まつもと市民芸術館・才能教育会館・スズキ・メソッド研究所 現地開催及びオンライン配信（ハイブリッド開催）
参加者数：現地参加263名 オンライン参加187名

指導者によるグループ討論



勤続指導者表彰(50年/40年/25年)



同時配信チーム(6名がスズキ・メソッド指導者)

初秋の信州で多彩なテーマを集中研究

2024年の全国指導者研究会は、例年の6月初旬から9月下旬開催に変更されました。初秋のさわやかな気候の松本で奏法・教室運営・教材研究・生徒指導法など多岐に渡るテーマでの自主勉強会が行われました。また、選抜された生徒の充実したコンサートも行われました。普段はそれぞれ自分の教室での指導に奮闘する指導者が、共通のテーマや課題を集中して学びあう機会があることは、スズキ・メソッドの大きな強みです。お互いを尊重しながら真摯に学びあうこの研究会は指導者の成長の場であり、また連帯を確認する場でもあります。交流や学習は用意されたプログラムのセッションにとどまらず休憩食事時間や夜の時間など、4日間の濃密な時間をフルに活用して行われました。講義や実技指導スタイルのセッションはオンライン参加の指導者に同時配信され、現地参加できない指導者にも勉強の機会が確保できました。コロナ時に培った同時配信チームのノウハウが十分に発揮され、本会の新たな強みとなりつつあります。



歌唱教材と伴奏法講義(0～3歳児コース特別講師 村尾忠廣先生)

TOPICS

スズキの「卒業制度」
解体新書

達成の喜びが更なる成長を促す、
生徒・指導者が一体となり取り組む、
ユニークな制度の全貌を一挙公開します。

Q.1 「そうだったのか」スズキ・メソードの卒業制度
スズキの卒業制度は、何が違うの？A. スズキ・メソードの卒業制度は、
「競争ではなく成長を大切にする」仕組みが違います。

スズキ・メソードの卒業は、順位や可否を競うものではなく、「ここまでよく学びましたね」という節目の評価とされています。各課程ごとに課題曲があり、生徒はその演奏を録音して提出します。提出の判断は日々の練習と指導を通じて行われ、指導者は生徒が確実に合格できるよう丁寧に寄り添います。この制度はスズキ教室の生徒のみが対象で、一般生徒は参加できません。生徒と先生が共に成長する取り組みが、スズキ卒業生の高い評価につながっています。

Q.2 「卒業録音」にまつわる知られざる「すごい！」舞台裏エピソード
卒業に必要な「卒業録音」って何？A. 課題曲をしっかりと仕上げ、
演奏録音を提出し審査を受けることで、卒業した証となります。

「録音」は生徒にとって大きな出来事です。本番のような緊張感の中で1曲を通して演奏する経験は、大きな自信と成長につながります。卒業録音提出は、すべての生徒に平等な機会が与えられるよう、提出プロセスの管理に万全を期し、提出期限も厳守されています。先生は、ベストな状態で録音できるよう丁寧にサポートします。全国から届く何千もの音源は事務局に届けられると、少人数のスタッフが心を込めて対応しています。この録音は、スズキ・メソードの生徒と先生の歩みの証であり、未来へ続く大切な一歩です。

Q.3 「卒業録音」のゴールは生徒と先生の更なる成長。それがスズキ・メソードの指導力の根源
「卒業録音」の審査と評価はどのように？A. 「卒業録音」は、一人ひとりの演奏を大切に受けとめながら、
経験豊かな先生たちが丁寧に聴いて評価しています。

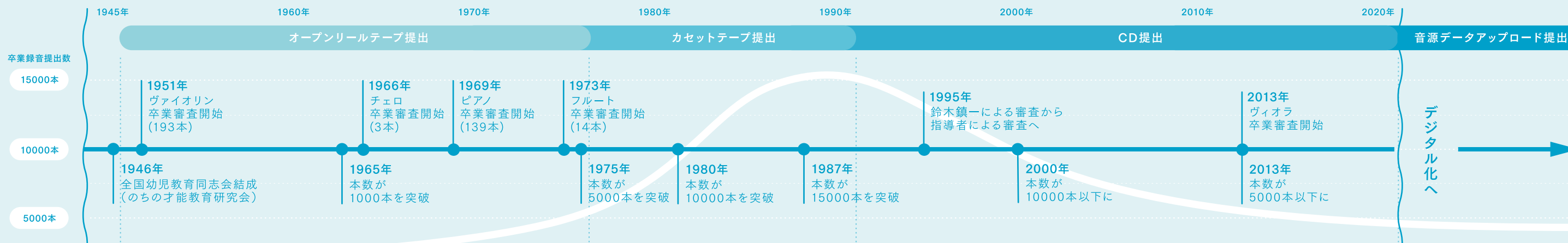
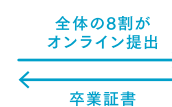
創始者の鈴木鎮一は、毎年1万本以上の録音を1人で聴いて評価・審査し、生徒の演奏を通じて指導者の指導も確認し、全指導者の指導の向上を常に目指していました。現在は、その役割を各楽器の特別講師とベテラン指導者が分担して担い、丁寧に審査を行っています。さらに、審査作業の終了後には楽器科ごとに特別講師と指導者が集まり、審査の振り返りや反省を共有するとともに、一般指導者へのフィードバックも行うことで、指導の質の維持とさらなる向上につなげています。こうした取り組みを通じて、スズキ・メソードでは常に高い指導レベルを保ち、生徒たちの成長を支えています。

Q.4 検定やコンクールでないのに、スズキ・メソードの「〇〇課程卒業」は客観的な評価
卒業生はどのような評価を受けるの？A. 確かな指導に基づく信頼性の高い音楽教育の成果として、
進学・就職・研究の場で高い評価を受けています。

スズキ・メソードの卒業制度は、客観的な高い信頼を得ています。たとえば、「同じレベルの演奏能力をもつ生徒集団を対象に実験を行いたい」との要望から、「〇〇課程卒」の生徒を対象に被験者の依頼が寄せられることがあります。また、芸術系学部からは「才能教育課程」卒業生に対し、実技試験を免除するという申し出もありました。さらに、「才能教育課程」や「研究科」の卒業証明書は、進学や就職時の人物評価資料として提出されることもあります。こうした評価はすべて、スズキ・メソードの指導者・生徒・保護者が長年にわたり積み重ねてきた努力の成果にほかなりません。



卒業制度のしくみ



「卒業録音」に向き合う

特別講師からのメッセージ

先生方は、
1本の卒業録音をどのように聴いているのでしょうか？

毎年の卒業テープの提出は、全ての生徒さんにとって年間最大のトピック(出来事)と言えるものです。そのような位置付けと心構えで私たちが一人ひとりの生徒さんの演奏を聴かせていただいております。例えば、**たった1箇所のクレッシェンドの表現をリアルに創り上げること、たった1小節の難しいパッセージをより美しく弾けるように整えること。そのプロセスとそれに費やす時間はとても尊いものですし、それを積み重**



特別講師長・ピアノ科特別講師 東 誠三先生

ねることは、必ずや生徒さん一人一人の人生の中でプラスに働く要素となることでしょう。卒業録音を聴く私たちはそうした、弾く人にしか分からない「小さな努力」をはっきり感じ取ることができます。**生徒さんが前向きに取り組んで音に込めた「小さな努力」を、たくさん、たくさん感じる事が私たちの生き甲斐です。**卒業録音の提出を心から楽しみにしています！

卒業録音を聴いていると、きちんと弾けているいい状態の生徒さんと仕上がりがまちまちの生徒さんがいて、それぞれの生徒さん、或いは、先生方の中で「仕上げる」ということに関する認識の違いがあるように感じました。コメントについては、生徒さんにはそれぞれの持ち味など良いところを見つけて指摘しますが、先生には主に気をつけて欲しい点を細かくお伝えしています。**最初の自己紹介の様子で、その生徒さんがどのような意気込をもち、どのように弾き**

たいのか感じるがあります。良い録音とは、技術云々以上に、生徒さんの意思が伝わる演奏だと思えます。感性の引き出しをどう育てていくかという点では、スズキの特徴でもあるグループレッスンを活用したり弦楽や室内楽の機会をつくり、音の響き合いや他の楽器との連携で耳を育て、音のイメージを膨らませて欲しいですね。**理屈ではなく、魂が伝わってくるような演奏を待っています。**



ヴァイオリン科特別講師 竹澤恭子先生

聴かせていただき気になる箇所がある場合は、先生に具体的なアドバイスをお伝えすべきか、自然に直るであろうと予見されるかを見極めて対応します。「良くない演奏」はないと思っています。**その子なりのハードルを乗り越えた演奏には「やって良かったね」と声をかけたいです。**時には、録音を聴いて感動して泣くこともあります。先生と親御さんとの関係が素晴らしくて、**お子さんが押さえ付けられていないこと**



ヴァイオリン科特別講師 江口有香先生

スズキメソッドの卒業制度が鈴木鎮一先生が亡くなられて20数年経つ今も継続されているということは本当に素晴らしいことと思います。これは先生方お一人お一人の鈴木先生への想い、そして制度への深いご理解、また教育と音楽に対する情熱、この様なことが反映されて経た年月です。**私は録音を聴く際に「音楽的かどうか」を大切にしています。こちらに「感じさせる」音楽であって欲しいですし、技術的に演奏できているか、ということもとても大切ですが、日常の良い環境が感じられるような温かい音楽を聴かせていただきたいです。**数年前に聴いたヴィヴァルディの

g-mollを演奏した6歳の男の子の演奏は大変感動しました。音の中に「息」「生」がありました。このような生徒を一人でも多くするために、私たち大人が常日頃から努力を続けていかなばならないことを痛感させられる、そんな卒業録音でした。この卒業制度をこの先5年、10年とますます発展させるためには先生方が理想を高く持ち続け、本物を求め、伝統を守りつつもどんどん新しいことに挑戦していく事が大切です。私もできる限り、ご協力をさせていただきます。今後とも、どうぞよろしく願い申し上げます。



ヴァイオリン科特別講師 萩原尚子先生

何も見ずに、最初はまず録音を聴きます。その後、先生からのコメントに目を通し、「なるほどそうか」と思いながら、改めて2回目を聴きます。基本的に生徒さんには良い点のみつけて褒め、先生には私なりのアドバイスをさせていただいております。やはり、**大切なのは自然な表現力で、それは音色だったり音楽性だったりしますが、センスが良くて基礎ができている演奏**



チェロ科特別講師 倉田澄子先生

他人の演奏を聴く事は僕自身と向き合う事でもあります。それは超一流の演奏家でも友人でも演奏を聴く時は常に自分にも問いかけます。**そして卒業録音を聴いてコメントを書く時には重い責任を感じると共に自分自身にもそのコメントを**

には幸せをいただきます。一方で、音楽的表現は良いのだけれども、基礎が惜しいという録音もありますね。**重音の音程やピアノと合っていない音程は特に気になります。ハーモニーの感覚を育てることは、将来、室内楽を楽しむ際にも生きてきますから。**

卒業審査において**私が喜びを感じるの、は、受講生が単に楽器を演奏するだけでなく、高い向上心を持って音楽に真摯に向き合い、心から楽しんでいる様子が伝わってくる時です。**演奏前の話し方や、指導者のコメントからも、その音楽に対する深い意欲や姿勢が感じ取れることがあります。**卒業制度での録音は、1つの楽曲を徹底的に練習し、深く掘り下げ**



チェロ科特別講師 菊地知也先生

問いかけます。それが今の僕の成長の糧になっている事は言うまでもありません。「良い音とは?」「聴き手の心を動かす演奏とは?」「作曲者は喜んでるのか?」これは皆さんにも求めたいし、僕が常に自分自身に求めている事でもあります。



チェロ科特別講師 山本裕康先生

ことで初めて良い演奏へと繋がります。こうした惜しみない努力が実を結んだ演奏は、聴く人の心に深く響くものとなります。そして、そのような努力ができるように導くことこそが、指導者に求められる役割だと考えます。指導者の皆様には、受講生が「1つのものを完成させる喜び」を深く味わえるよう、愛情と情熱を持って導いていただきたいと心から願っています。

毎年、生徒さんから送られてくる卒業録音を楽しみにしております。生徒さんの練習意欲、高い音楽センスの獲得への意欲を向上してもらうための助言や提案、激励をします。コメントはポジティブな視点を重視しつつ、必要に応じて今後の指導についての提案を指導者の方にお伝えしています。**卒業録音についてのコンセンサスとして特に大切だと感じている点は次の2つです。**

1)卒業制度は演奏試験ではないこと。2)生徒の学習意欲を上げていくための生徒、指導者へのコメントが第1優先であって、技術的な助言やコメントは第2優先であること。これからも指導者、保護者の皆様と力を合わせ、生徒さんの音楽的センスの発展を支えていけるよう、ベストを尽くしたいと思います。



フルート科特別講師 宮前文明先生

録音を聴かせていただくと、かつて「キラキラ星」から始めた小さなお子さんが、ベートーヴェンのソナタを弾くまでに成長されたことの素晴らしさを感じます。**一朝一夕にはできない、日々コツコツと積み重ねてこられたことの貴重さを思います。録音には、良くも悪くもここまで積み重ねて来られたことが表れます。よくCDを聴くとともに、「キラキ**

ラ星」から始まるおけいこを一つひとつ丁寧に積み重ねていくことが大切です。教本の一曲一曲を大切に、それぞれの曲で学ぶべきポイントを日々の練習の中でしっかり身につけていただければ、きっと将来、ベートーヴェンのソナタを立派に演奏できるレベルまで到達できることでしょう。



ピアノ科特別講師 臼井文代先生

卒業課題曲
一覧はこちら

指導者・生徒・保護者のスクラム

10段の「卒業」階段を 14年で登り切った達成感



14年の歩み

富山県高岡市フルート科
摺出寺 敬子先生クラス
中島 奏くん・葵さん

2014年 7歳 前期初等科
2015年 8歳 初等科
2016年 9歳 前期中等科

2017年 10歳 中等科

奏くんとお父様の葵さんは競技かるたではライバル関係。かるたもフルートもお父様の愛情に満ちた厳しい指導と支援で一步步着実に成長した。



中学生になるとフルートは学校の吹奏楽での練習が中心となり、摺出寺先生のレッスンも自分一人で対峙し取り組むようになった。

卒業課題曲の練習も11月の録音から逆算して、自分で計画的に準備できるようになっていった。先生と本人が納得いくまで何度も録音。目標レベルを達成した演奏が確実に次のステップへの土台となっていた。

2010年 3歳

通っていた幼稚園にあった摺出寺敬子先生のフルート教室に通い始める。お母様の第2子出産もあり、音楽の素養をもたれているお父様の葵さんが奏君のフルートの見守り役となった。



2020年 13歳 前期高等科

2020年 13歳 高等科

2022年 15歳 才能教育課程

2022年 15歳 研究科A

2023年 16歳 研究科B

2024年 17歳 研究科C



● ついに最上位卒業課題曲の録音に挑戦

奏くん

卒業制度の最高位、最難関曲なので「ラスボス」とニックネームをつけて取り組みました。高校生で忙しいため、「レッスンで一気に上達させる」と意気込んでやりました。

葵さん

久しぶりに録音の場に立ち会い、自立した演奏姿に接しました。幼稚園の頃から今日まで、いつ辞めてもおかしくない時期もありましたが、よく頑張ったと思います。

摺出寺先生

本人が納得できる練習方法をと頑張ってきたら、いつの間にか最後の卒業曲までたどり着いていたというのが実感です。27年の指導者歴の中で奏くんが初めての研究科C卒業の生徒さん。私にも非常に嬉しい出来事でした。

スズキ・メソッド「卒業」制度の

課題と将来展望



現在の課題

評価基準

「演奏」の何を評価するのか。各課題曲の評価ポイントは何か。

公平性

複数の審査者や、審査者の交代の中で、評価基準をいかに統一し維持継続するか。

評価・フィードバック

生徒へのコメント、指導者へのフィードバックはどうあるべきか。

指導力向上

卒業審査で顕在化した指導上の共通課題をいかに指導現場に反映していくか。

技術進化の活用

デジタル化へ

卒業演奏の音源（動画）はCDメディア送付からデジタルデータのアップロードに移行しました。デジタルデータは本部で一括管理されており、今後は個人情報保護を完全に保ちながら演奏データは時空を超えた共有が可能になっていきます。スズキ・メソッドでは、技術環境進化のメリットを積極的に取り入れ、指導の充実に活かし生徒の確かな成長に役立てていきます。

卒業制度を世界へ

卒業制度の真髄を世界へ

卒業制度は創始者鈴木鎮一がスズキ・メソッドの指導を正しく浸透拡大させるために設計した教育制度であり、教材や指導法と並ぶスズキ・メソッドの根幹ともいえるものです。2023年に日本で行われた世界のスズキ・メソッド中核指導者の会議（スズキ・メソッド国際ティーチャートレーナー会議）では、日本で実施されている「卒業」制度が紹介され、世界のスズキ・メソッド指導者は制度の形式面ではなく制度に託された精神や狙いを日本の指導者と共有しました。

助け合いと世界連帯のキラキラ星シール

会議の結論として、世界のスズキ・メソッド指導者は制度の精神（生徒の意欲づくりと指導者の指導力向上）を尊重し、それぞれのやり方で卒業制度にチャレンジすることになりました。日本をはじめ既に実施している組織はこれからチャレンジする組織を国・地域を越えてサポートします。またスズキ・メソッドで必ず最初に練習する「キラキラ星」を録音し、録音した生徒には世界共通デザインの「キラキラ星」シールをプレゼントする案が採択され実施に向けて準備が進んでいます。

指導現場

負担軽減

ピアノ伴奏の負担をいかに軽減するか。

生徒支援

「卒業」録音提出の水準到達に苦勞している生徒を水準到達に向けていかに導いていくか。

動機付け

卒業録音に向けた生徒・保護者へのモチベーションアップをどのように行うか。

卒業セレモニー

より多くの卒業生に卒業式や、卒業記念コンサートの機会をいかに設けるか。

演奏録音（録画）の指導者間の共有

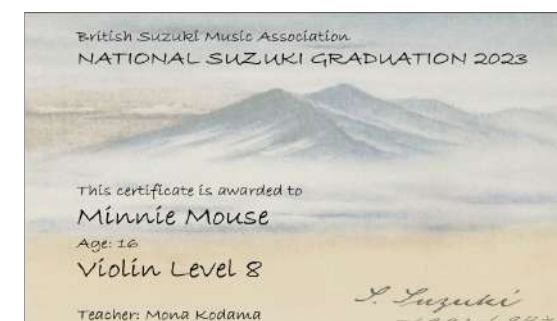


生徒や教室（指導者）の卒業履歴管理



将来的には…

卒業演奏や記録を蓄積し、AIや脳科学などの技術も活用しながら、より良い指導と生徒の成長支援へ。



英国スズキ・メソッドの卒業証書

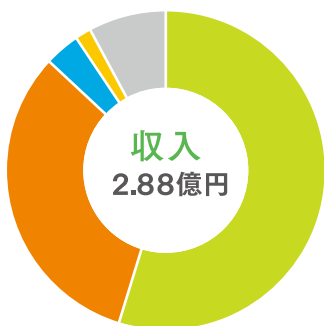


世界共通のキラキラ星シールのデザイン

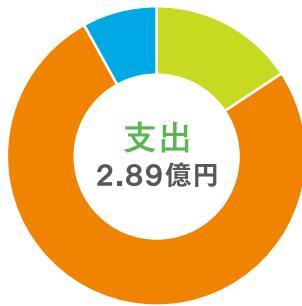
2023年度 収入と支出の内訳

※本会は5月末決算の為、財務報告は2024年5月末締めめの決算報告です。

- 会費収入(54.0%)
- 事業収入(35.1%)
- 補助金・助成金(1.5%)
- 寄付(0.2%)
- その他(9.2%)



- 共通運営費用(16.0%)
- 事業活動費用(75.8%)
- 維持費用及び積立(8.2%)



スズキ・メソードは会員（主に指導者及び生徒保護者）からの会費が収入全体の6割弱を占めています。事業収入は夏期学校・全国指導者研究会・卒業制度の参加費及び教室賃貸収入となっています。その他は積立金の取り崩しです。

スズキ・メソードの支出は共通運営費の比率が人件費の削減により20%から16%になり、事業活動費用の比率が高まりました。



貸借対照表

<https://www.suzukimethod.or.jp/pdf/2023BS.pdf>



正味財産増減計算書

<https://www.suzukimethod.or.jp/pdf/2023zaisan.pdf>

ご支援のお願い(賛助会員のご案内)



一般会員・個人

本会の目的および事業に賛同し支援をする個人

年額会費 5,000円

お支払い方法

入会手続きの際にクレジットカードを登録していただけます。会費は年1回年額を請求させていただきます。



協力会員・法人

本会の目的および事業に賛同し支援をする法人

年額会費 30,000円(一口)

お支払い方法

入会手続き後、下記口座まで銀行振り込みでお支払いください。※手数料はご負担願います。

支店名 りそな銀行松本支店
当座預金 0100439
名義 公益社団法人才能教育研究会

現在の法人賛助会員様

スズキ・メソード幼児教育研究会 / 伊那食品工業株式会社

賛助会員の3つの特典

- 1 会報・機関誌を送付
- 2 本会主催事業への案内状を送付
- 3 会報・機関誌・WEBに法人名を掲載



理事長
早野龍五

皆様のお力添えに感謝いたします。

子どもたちが楽器を通して真剣に打ち込む姿と、できたときの喜びは、大きな人間的成長を促す力となります。私たちスズキ・メソードは、「どの子も育つ」ことを大切に、そして、時代が移っても変わることなく、さらに拡充、発展させたいと願っております。

詳しくは、スズキ・メソードのWEBサイトにて「賛助会員入会のご案内」をご覧ください。



創始者 鈴木鎮一について



スズキ・メソード創始者
鈴木 鎮一

1898年10月17日名古屋に生まれる。市立名古屋商業学校卒業後、1920年に上京、徳川義親侯爵家に寄宿してヴァイオリンを安藤幸（幸田露伴の妹）に師事する。翌年、徳川侯爵の世界一周旅行に同行してベルリンに留学。カール・クリングラーに学び、また相対性理論で有名なアルベルト・アインシュタインからも薫陶を受ける。1928年結婚し帰国。帰国後3人の弟たちと「鈴木クワルテット」を結成、活発な演奏活動始める。1931年ロシアのヴァイオリニスト、アレキサンダー・モギレフスキーらとともに帝国音楽学校を東京に設立し、教授に就任、その後校長となる。1937年頃から江藤俊哉、豊田耕児、小林武史・健次兄弟、鈴木秀太郎、有松洋子らを指導する。1943年長野県木曽福島に疎開。1946年長野県松本市下横田に松本音楽院を開設し、院長に就任。同年才能教育研究会の前身である「全国幼児教育同志会」を結成、1948年に「才能教育研究会」と改称し生涯にわたり会長として同会の発展に尽力した。1996年松本市に鈴木鎮一記念館が開館。1998年1月26日永眠。享年99歳。米ニューイングランド大学ほか世界の9つの大学より名誉音楽博士号・名誉博士号を授与された。英サンデータイムス紙の「20世紀をつくった1000人」の1人。勲三等瑞宝章。松本市名誉市民。

スズキ・メソード 80年の歩み

1940年代

1946年（昭和21年） 9月、松本市下横田に松本音楽院創設。鈴木鎮一院長就任。才能教育研究会の前身「全国幼児教育同志会」を結成。

1950年代

1950年（昭和25年） 10月、「社団法人才能教育研究会」が設立認可。

1951年（昭和26年） 長野県霧ヶ峰高原で第1回夏期学校開催。生徒109名と指導者11名が参加。

1955年（昭和30年） 3月、東京体育館での第1回全国大会（現グランドコンサート）に1200名の生徒が参加。

1956年（昭和31年） 第1回全国指導者研究会（松本市郊外）に41名が出席。

1964年（昭和39年） 3月、第1回海外演奏旅行。10人の生徒（テン・チルドレン）がアメリカ各地で演奏。

1960年代

1967年（昭和42年） 8月、松本市深志に才能教育会館落成。アメリカ弦楽指導者協会（ASTA）のメンバー68名が来日し、夏期学校を視察。

1970年代

1970年（昭和45年） 大阪万博の国連デーに1000名の生徒たちが、お祭り広場で祝賀演奏。鈴木会長 勲三等瑞宝章。

1975年（昭和50年） 6月、第1回世界大会をハワイで開催。日本、アメリカ、オーストラリアなどから指導者・生徒・父母870名余が参加。

1980年代

1983年（昭和58年） 7月、第6回世界大会を初めて日本（東京・松本）で開催。世界22の国と地域から1500名が参加。

1990年代

1998年（平成10年） 長野冬季オリンピック記念コンサート「平和への演奏、世界へ響け1000人の子どもたち」に、20数ヵ国の生徒が出演。（長野市）

1999年（平成11年） 豊田耕児会長就任。

2002年（平成14年） 信州大学と研究協力協定を結ぶ。

2004年（平成16年） 第50回記念グランドコンサート（日本武道館）と国際シンポジウムを開催。

2007年（平成19年） スズキ・メソード 0～3歳児コースがスタート。

2008年（平成20年） 中嶋嶺雄会長就任。

2010年代

2012年（平成24年） 10月、「公益社団法人才能教育研究会」に移行。

2013年（平成25年） 3月、第16回世界大会を松本で開催。日本で4回目の大会に世界36の国と地域から5400名が参加。鈴木裕子会長就任。

2017年（平成29年） 早野龍五会長就任。東京大学と共同研究契約を結ぶ。

2019年（令和元年） 11月、ローマ教皇フランシスコ来日時にスズキ・メソードの生徒、指導者が御前演奏。

2020年代

2021年（令和3年） 全国指導者研究会、夏期学校を初めて全プログラムオンライン配信で実施。夏期学校が第70回を迎える。

2023年（令和5年） 4月、軽井沢のG7外相サミットで、スズキ・メソードの生徒が歓迎演奏。

2024年（令和6年） 早野龍五理事長就任。東誠三会長就任。